＜北サポ通信＞

心地よい秋風が吹き抜ける季節ではありますが、皆様はウィズコロナで毎日気を使われて診療されていることとお察しいたします。今後も変異株の感染拡大に注視し、引き続き対策を怠らぬよう注意が必要と感じています。

このたび北サポでは、新型コロナウイルス感染症拡大による在宅医療・介護の現場への影響を探るため、訪問介護・看護事業所の皆様にご協力を賜り、アンケート調査を実施しました。調査は2種類あり、(1)「長期に亘る外出自粛による高齢者の健康面への影響を調べることを目的とした高齢者フレイル実態調査（2020年1月～2022年8月）」、(2)「訪問看護・介護事業所のコロナ対応に関する調査（2021年10月～2022年8月）」を実施しました。調査対象施設は、北区内の訪問介護事業所57件、訪問看護事業所34件、回収率はそれぞれ、39%(22件)、74%（25件）でした。データ収集方法としてはアンケート用紙を郵送またはFAX送信し、FAXにて回答を受領するようにしました。ここにその一部をご報告いたします。

（1）では、「新型コロナ感染拡大が理由で、フレイル状態になった利用者はいましたか？」の問いに対して「いた」が訪問介護事業所：45%（10件）、訪問看護事業所：44%（11件）あり、その年代として最も多いのが両方ともに「75歳以上」でした。また介護度の区分変更（1～2ランクアップ）や施設入所という対応をとった施設もありました。

内閣府令和3年度高齢者白書では、「高齢者の自粛長期化による顕著な生活不活発を基盤とするフレイル化が進むという、いわゆる『コロナフレイル』とも言える健康二次被害が明確なエビデンスとして見えてきた。社会生活の低下した群ほど機能低下が顕著であった。」と述べられています。地域活動の情報収集や啓蒙はもちろん、今後は在宅でのリハビリテーションなど、多職種で協力しフレイル予防に努める必要があると考えます。

（2）では、「新型コロナの感染対策について問題がありますか？」の問いに、訪問看護事業所・訪問介護事業所ともに「自分が感染するかもしれない」、「家族やスタッフに感染させるかもしれない」の答えが最も多く、ストレスフルな状況で新型コロナ感染症陽性患者・利用者への訪問が実施されていたとの結果が出ています。スタッフが感染したり濃厚接触者になるケースもある中で、地域のネットワークが必要であり、感染だけでなく自然災害時のBCP(事業継続計画)の作成に向けて、必要な情報共有ができるように各事業所との連携も続けていきます。

これらのアンケート結果は北サポホームページへ掲載予定です。

「【自分らしく住み慣れた場所で最後まで】全ての事業で1人の生活を支える」を実現するために頑張ります。どうぞ、お気軽に北サポをご活用ください。

北区在宅医療・介護連携相談支援室
コーディネーター：川田　雅子
〈ご相談連絡先〉ＴＥＬ　06－6948－6630
ＦＡＸ　06－6948－8956
http://www.kita-med.or.jp/kitasapo/
E-mail　kita-support@dune.ocn.ne.jp